

大学

企画課管理用 教 ー C ー 4

推進主体	法学部
責任者	法学部長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	ー	C	④英語での専門教育カリキュラムの充実	令和 4 年度	令和 9 年度	なし

① 目的・内容

政治学科において、海外からの留学生や留学を希望している学生等を主な対象と想定して、日本の政治・社会に関する内容を中心とする英語による専門教育科目を提供する。

② 到達目標(数値目標／定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

令和4年度から令和6年度までの可能な時期にニーズ調査を行い、その結果を踏まえて、別項の「専門教育カリキュラムの更なる発展」を目的とした専門教育科目の見直し・検討の際に、英語による専門科目の設置も併せて検討する。令和9年度の開講を目指す。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	
予定			ニーズ調査	→		開講に向けた準備	→	開講

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
直近		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
直近		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
(2022年度) 令和4年度	学生(留学生)のニーズとしてどのような科目の希望があるのか、国際センター等の協力を得ながら、調査を行う。	コロナ禍で過去3年間留学生の受け入れが停止状態となり、対面での聞き取りができなかった。また、今後の再開状況も不透明であったことから、調査の実施を先送りした。 ★進捗段階:「計画立案」
(2023年度) 令和5年度	政治学科への海外留学生の受け入れ状況をみながら、コロナ禍以前と同程度またはそれ以上に来校するようであれば、それらの学生への聞き取りを中心にニーズ調査を実施する。	国際センターの協力を得て、政治学科で受け入れている留学生に対する聞き取りを行った。学習院を選んだ理由は、日本語か英語の片方ができればよい点であり、英語の授業に対するニーズは低いことがわかった。一方、来日直後の日本語訓練期間にも履修できる日本語での専門科目があれば取りたいこと、国際センターが提供するピアサポートの満足度が高いことがわかった。 ★進捗段階:「計画立案」
(2024年度) 令和6年度	引き続き受け入れ留学生に対するニーズ調査を実施する。また、『学習院大学グランドデザイン 2039に対する外部評価結果報告書』に模範的な目標より学習院大学ならではの独自性を発揮するよう求められたことを踏まえ、政治学科の特長である少人数教育の充実を活かし、1年生向けの基礎演習にも門戸を開くなど、日本語で開講される演習タイプの授業に受け入れる等の方策への転換も検討する。	1年次向けの「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の授業運営方法の改訂を踏まえ、同科目に留学生が参加できるかどうかを検討していくこととした。また、これまでの留学生に対するニーズ調査では汲み取れなかった見解や課題の把握に努めた。特に、演習形式の授業であっても留学生が日本人学生と交流を深め、相互に学ぶ機会を得られないといった声が上がっていることが判明したため、一方で国際センターとの連携を図り、他方で学科内で留学生の抱える問題点について共有し、授業運営のアイデアの共有など、各教員の裁量の範囲内での対策を検討していくこととした。 ★進捗段階:「計画立案」
(2025年度) 令和7年度	引き続き受け入れ留学生のニーズの把握に努めるとともに、個々の授業における留学生に対する教育・指導をめぐる課題や対策について、FD研究会などを活用しながら政治学科内での情報共有と検討する機会を定期的に設ける。教務課や国際センターと連携しながら、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の活用を含め、政治学科として留学生向けの専門科目を充実させるためにはどのような対策が取り得るのかを、制度・手続面と内容面に目を配る形で検討し、具体的な方針を確定させ、必要な手続きを進めていく。	留学生に聞き取り調査をした結果、英語で日本の政治や社会について学ぶ授業は、国際センターのJapanese Studiesや国際社会科学部の授業で間に合っていること、それよりも日本語で開講される少人数の授業、その中でも「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」よりは「外国書講読」や「特別演習」の方が本学部に来る留学生の需要に近いことが明らかになった。これを受けて、今後は、来日後に受け入れ教員が面談する際、外国書講読や特別演習の履修や国際センターなどの法学部以外のリソースの活用を勧められるように、学科内で方針を共有した。また、上述の聞き取り調査において、留学前に得られる情報が少なかつたとの情報が得られた。 ★進捗段階:「実施展開」
(2026年度) 令和8年度	聞き取り調査で課題とされた広報活動のあり方について検討する。	

大学

企画課管理用 教 ー C ー 4

推進主体	経済学部
責任者	経済学部長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教 ー C	④英語での専門教育カリキュラムの充実	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

経済学部では英語教育の重要性を認識し、以下の英語専門科目および国際交流プログラムを実施している。
 [英語専門科目]
 ○英語で学ぶ経済学、○英語で学ぶ経営理論、○英語で学ぶビジネス事情、○外国書購読
 [国際交流プログラム]
 ○英語集中プログラム・英語イブニングプログラム: 著名な英会話学校によるキャンパスで行う英会話授業
 ○海外短期英語研修奨学金制度、: 海外研修に対する資金援助
 ○ゼミ海外研修合宿補助制度: ゼミ合宿を海外で行う場合の旅費の補助
 ○TOEIC受験支援プログラム: 大学キャンパス内で行うTOEIC試験の受験料補助

国際交流プログラムは現在コロナ禍で休止しているが、再開した後、その課題について検討して、必要な見直しを行う。
 英語専門科目についても、内容の把握と検討を行う。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

これらの授業、プログラムの効果进行评估し、必要な改善を行う。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
	施策の評価・検証	施策の評価・検証	施策の評価・検証	施策の評価・検証	施策の評価・検証	施策の評価・検証	施策の評価・検証
予定	→						

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	施策の評価・検証を行う。	<p>[英語専門科目]では、ネイティブ教員が行うすべて英語の授業である「英語で学ぶ経済学」(合計3科目)、および英語と日本語で行われる「英語で学ぶ経営理論」「英語で学ぶビジネス事情」「外国書購読」が計画通り実施された。</p> <p>[国際交流プログラム]は、コロナ禍により「ゼミ海外研修合宿補助」は実施されず、他のプログラムも低調ではあったものの、以下の通り実施された。英語集中プログラム26人(2月にも実施予定)、英語イブニングプログラム28人、海外短期英語研修奨学金1人(カナダ、10万円)、TOEIC受験支援プログラム10人(11月下旬にも実施予定)</p> <p>★進捗段階:「計画達成」</p>
令和5年度 (2023年度)	[英語専門科目]は引き続き実施する。これ以外の科目でも、英語や英語教材を使用することを推奨する。[国際交流プログラム]は、新型コロナウイルス感染症の感染収束を前提に、活性化を図る。	<p>[英語専門科目]では、経済学部で開設する「英語で学ぶ経済学」、「外国書講読」が計画通り実施された。</p> <p>[国際交流プログラム]は、コロナ禍が収束してきたことを受け、「ゼミ海外研修合宿補助」を再開した。他のプログラムも順次、コロナ禍の前の水準に戻すべく努力している。</p> <p>実績としては、英語集中プログラム12人(2月にも実施予定)、英語イブニングプログラム14人、海外短期英語研修奨学金3人、経済学部TOEIC公式eラーニング15人、経済学部TOEIC IPテスト18人(11月下旬にも実施予定)である。</p> <p>★進捗段階:「計画達成」</p>
令和6年度 (2024年度)	[英語専門科目]は引き続き実施する。新型コロナウイルス感染症の感染が落ち着いてきたことを受け、[国際交流プログラム]を海外渡航を含むプログラムを含め以前の水準に戻して国際化を推進する体制を再興する。	<p>[英語専門科目]では、経済学部で開設する「英語で学ぶ経済学」、「英語で学ぶビジネス事情」、「外国書講読」が計画通り実施された。</p> <p>[国際交流プログラム]では、昨年度再開した「ゼミ海外研修合宿補助」を利用して11の演習が海外研修を実施することになっている。加えて、以下のプログラムを実施した。英語集中プログラム13人(2月にも実施予定)、英語イブニングプログラム17人、海外短期英語研修奨学金7人、経済学部TOEIC公式eラーニング13人、経済学部TOEIC IPテスト32人である。</p> <p>★進捗段階:「計画達成」</p>
令和7年度 (2025年度)	[英語専門科目]は引き続き実施する。[国際交流プログラム]については、コロナ感染症が5類に移行して以降回復してきているので、海外渡航を含むプログラムを含め国際化を推進する体制を一層促進していきたい。	<p>[英語専門科目]では、経済学部で開設する「英語で学ぶ経済学」、「英語で学ぶビジネス事情」、「外国書講読」が計画通り実施された。</p> <p>[国際交流プログラム]では、昨年度再開した「ゼミ海外研修合宿補助」を利用して10の演習が海外研修を実施することになっている。加えて、以下のプログラムを実施した。英語集中プログラム13人(2月にも実施予定)、英語イブニングプログラム8人、海外短期英語研修奨学金7人、経済学部TOEIC公式eラーニング8人、経済学部TOEIC IPテスト30人である。なお、英語集中プログラムなどの参加者が伸び悩んでいるため、今後のプログラムの在り方については検討したい。</p> <p>★進捗段階:「計画達成」</p>
令和8年度 (2026年度)	[英語専門科目]は引き続き実施する。[国際交流プログラム]については、海外渡航を含むプログラムを含め国際化を推進する体制を一層促進していきたい。	

大学

企画課管理用 教 ー C ー 4

推進主体	理学部
責任者	理学部長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	ー	C	④英語での専門教育カリキュラムの充実	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

自然科学の事実上の共通言語は英語である。多くの科学論文は英語で出版される。国際学会に参加し研究成果を発表・討論する機会も増えている。日本にいながらも海外の研究者や留学生と議論することも珍しいことではなくなった。このような状況の中で、英語による科学教育の重要性は増しており、その充実を図る必要がある。そのため、学部開講の専門科目に、英語教育を主眼とするものを設置する。また、専門科目の講義の一部で英語教育を行う。卒業研究においては、学生が学術論文をはじめとした科学英語に習熟できるように指導する。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

下記の目標にしたがって、学生が段階的に高度な科学英語の運用能力を獲得することをめざす。

- (1) 英語で書かれた文献から科学的な情報を得ることができるようになる。
- (2) 自身の研究テーマについて英語で説明し、自己紹介の一部として話せるようになる。
- (3) 自身の研究テーマで発表スライドを使って発表し、質問や議論に対応できるようになる。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	英語教育を主眼とする専門科目の設置						
	専門科目の講義の一部での英語教育						

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
（2022年度） 令和4年度	英語教育を主眼とする専門科目を設置する。専門科目の講義の一部に英語を取り入れる。	科目の新設はなかったが、「科学英語演習」において新しい講師を迎え、内容を刷新した。専門科目では英語を使うように努めている。 ★進捗段階:「実施展開」
（2023年度） 令和5年度	英語教育念頭に置いて専門科目の教え方を工夫するよう、教授会で各教員に要請する。	英語に関する訓練時間の増加については教授の間で共通の理解は得られている。英語のテキストの輪講なども実施している。 ★進捗段階:「実施展開」
（2024年度） 令和6年度	対面教育が全面的に実施されるようになったので、少人数での英語のテキストの履行を増やす。また、外国人講師のセミナーも増やしてゆく。	ネイティブスピーカーの講師により、理学部共通科目「科学英語演習」を開講している。また、各学科で開講している演習や輪講等の授業科目において、英語のテキストや英文論文を読解させ、プレゼンテーションさせている。また、外国人研究者の来訪時に開催するセミナーに、学部学生も参加させている。 ★進捗段階:「実施展開」
（2025年度） 令和7年度	科学英語関係のカリキュラムおよび内容の充実を図ってゆく。	ネイティブスピーカーの講師により、理学部共通科目「科学英語演習」を開講している。また、外国人研究者の来訪時に開催するセミナーに、学部学生も参加させている。 ★進捗段階:「実施展開」
（2026年度） 令和8年度	科学英語関係のカリキュラムおよび内容の充実を図ってゆく。外国人講師のセミナーも増やしてゆく。	